



総括コメント・メッセージ

持続可能な取組は、みんなで事例を共有し合って、真似していくことが大事です。今日の事例発表もどんどん真似していきましょう。

SDGsを達成するのは人間です。一人一人が「こころ」「くらし」を見つめ直して、持続可能な未来を意識していくことで取組が進んでいきます。

時には壁にぶつかることもあるかもしれないけれど、私はこの言葉に支えられています。アメリカのアウトドアメー

(一社)エシカル協会代表理事 末吉 里花 氏

カー、パタゴニアの創設者のイヴォン・シュイナードさんから直接いただいた言葉です。

「もしあなたが活動をやめてしまったら、あなたは問題の一部になる。もしあなたが活動を頑張って続けていけば、あなたは解決の一部になれる。人は、何を思うか、何を言うかではなく、何をするかでその価値が決まる。」

行動しか社会を変えていくことはできません。ぜひ、ともに一歩を踏み出して、ともに世界を変えていきましょう！

開催報告書

—未来のために、あなたからはじめてみよう—

よくわかる! SDGsキックオフセミナー



開催日時: 2019年8月28日(水) 13:30~15:30 会場: ラ・プラス青い森 2階メープル 主催: 青森県



よくわかる! SDGsキックオフセミナー

—未来のために、あなたからはじめてみよう—
最近、よく耳にするSDGs(エスディーズ)。それが私たちの生活にどう関わるのか、何かできることはあるのか。講演や先進事例発表を通して、わかりやすく紹介します。

2019年8月28日(水) 13:30~15:30
ラ・プラス青い森 2階メープル (青森市中央一丁目11-18)

定員 先着150名 参加無料
企業、自治体、NPO、学生、どなたでもご参加できます。
参加方法 裏面の申込書にご記入の上、お申込みください。
申込締切 8月21日(水)



基調講演 私たちの選択から未来を変える エシカル消費からはじめるSDGsのすすめ

元ミステリーハンター 講師 末吉 里花 氏
TBSテレビ系「世界ふしぎ発見!」のミステリーハンターとして、世界各地を旅した経験を持ち、現在は、エシカル協会代表理事、日本ユネスコ国内委員会広報大使として、エシカル消費の普及活動に取り組んでいます。
*エシカル消費=地元や被災地の産品を買う、エコ商品を選ぶなど、人や社会、環境に配慮した消費行動のこと。

テーマ① 地方創生とSDGs推進の取組
宮城県 東松島市総務部地方創生・SDGs推進室



テーマ② 青森銀行の企業活動とSDGs
株式会社青森銀行



参加者アンケート結果

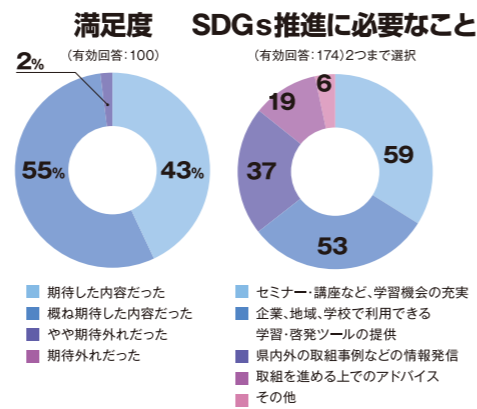
参加者からは「何から取り組めばいいのかわかった」、「身近なことから目標達成に貢献できることが良くわかった。」などの意見があり、県内の取組が進んでいく手ごたえが感じられました。

身近にあることをよくわかっていなかったことがよくわかった。

SDGsの理念で少しずつでも未来を変えたいと思った。
行動が世界を変えるという力強いメッセージは今後の仕事・生活の上で励みとなった。
ただの普及セミナーではなく、今できることを示してくれた。

SDGsは、地球規模で、各国、政府、地方自治体、企業、国民、それぞれが取り組むべき指針。全ての組織・個人が自分事としてとらえ、行動することが大事だと思った。
まずは、自分がやれる事から始めるという考えがすごく良いと思う。無理せず、取組をしていくのが必要と感じた。

いろいろな観点や取り組み方があること、それぞれの課題によって異なるということを感じた。自分の活動が何に該当するのかを理解することが大事と思った。



青森県は、2019年8月28日(水)、SDGsが私たちの生活にどう関わるのか、何からはじめればいいのかを分かりやすく伝えることを目的として「よくわかる! SDGsキックオフセミナー」を開催しました。



県内外から、企業、団体、自治体、個人の方など約150名が参加し、会場は満席となり、参加者から活発に質問が出されるなど、SDGsへの関心の高まりが感じられるセミナーとなりました。

主催者あいさつ



青森県副知事 青山 祐治
今年度スタートした「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」では、計画の推進に共通して必要な取組として、「SDGsの理念を踏まえた各種施策の展開」を位置付けています。
グローバル化が進展し、国際社会全体でSDGsに対する関心が高まっていく中で、県内の多くの皆様にSDGsについて理解していただくことが大変重要であり、本セミナーの講師の方々のお話を参考に、自分たちに何ができるのかを考えるきっかけにさせていただくことを期待しています。

イントロダクション



青森県企画政策部企画調整課長 田中 道郎
SDGsは2030年までにすべての国が関わって解決していくべき国際目標であり、本理念は「誰ひとり取り残さない」ことです。また、SDGsは経済・社会・環境の課題に統合的に取り組み、行動していくための「道しるべ」となるものです。
事業の企画立案へのSDGsの視点活用や、県民の理解促進など、県はこれからも積極的に情報発信や普及啓発に取り組んでいきます。



〈プログラム〉

開会 / 主催者あいさつ

青森県副知事 青山 祐治

イントロダクション

青森県企画政策部企画調整課長 田中 道郎

基調講演

「エシカル消費からはじめるSDGsのすすめ」
講師/一般社団法人エシカル協会代表理事 末吉 里花 氏

事例発表①

地方創生とSDGs推進の取組
発表/東松島市地方創生・SDGs推進室 主任 相澤 誠氏 主査 坂本 康至氏

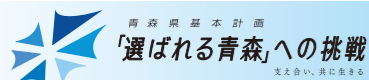
事例発表②

青森銀行の企業活動とSDGs
発表/株式会社青森銀行総合企画部 広報室長兼副部長 工藤 達也氏

総括コメント

一般社団法人エシカル協会代表理事 末吉 里花 氏

県は、参加者アンケートでのご意見も踏まえながら、今後も引き続きSDGsの推進に取り組み、県内企業・各種団体・自治体な多様な主体の連携のもと、持続可能な青森県づくりを進めていきます。



基調講演

私たちの選択から未来を変える

—エシカル消費からはじめるSDGsのすすめ—
一般社団法人エシカル協会代表理事 末吉 里花 氏

わたしは、ミステリーハンターとして世界を回るうちに、この世界では一握りの利益や権力のために美しい自然や弱い立場の人が犠牲になっているということを実感しました。

皆さんが普段消費しているものが、どこで、どうやって作られているか知っていますか？ たとえば、チョコレートの原料であるカカオ豆は、西アフリカの幼い子どもたちが、大きなナタをもって長時間危険な労働をして作っています。この子たちはチョコレートの味を知りません。日本人が消費しているモノを作っている現場には、こうした子たちの姿があります。私たちは知らない間に、児童労働、貧困問題など様々な問題に加担しているかもしれません。

小学校でこの話をすると、子どもたちの顔色がさっと変わります。子どもたちはいいです。「なんで大人は教えてくれないの。なんで解決しようとしなの」と。こうした問題は、誰かに取り上げてもらわなければ問題視されません。大事なのは、私たちの身の回りでどんなことが行われているのか、どんな問題があるのかを知ろうとすることです。



エシカル消費とは、人・社会・地球環境・地域に配慮した消費のこと、モノの過去、現在、未来を考えて消費をすることです。世界が抱える様々な課題を解決する力の一端に誰でもなれるし、今日からでも始めることができます。SDGsの中で、もっとも身近に貢献できる手段です。SDGsのゴール12「つくる責任、つかう責任」だけでなく、貧困や児童労働の撲滅など、いくつものSDGsの達成に寄与することができます。

既に中学校や高校の教科書では、フェアトレードの記載があり、授業でこうした問題を当たり前学ぶ時代がもう来ています。子どもたちは、自分がこれから生きていく地球をどうやって守っていくのか、真剣に考えています。大事なのはローカライゼーションとパートナーシップです。それぞれの地域で抱える課題に対し、企業、自治体、学校、地域などが連携して取り組む必要があります。

エシカルとは、一人一人が自分のくらしの影響をしっかりと考えることです。それは、家でも、企業でもどんな立場でも一緒です。「エ:影響を、シ:しっかりと、カル:考える」。

ぜひ実践していただければ嬉しいです。

参加者の声

- 子どもたちや若者の反応、意見は大変考えさせられた。次世代にどのような社会をつなぐのか、そのために、大人一人ひとりが生活や仕事の中で考えなければならないと思った。
- 実践、情熱をこめた講演で共感できることが沢山ありました。もっと多くの方に聞いてほしい。

事例発表①

地方創生とSDGs推進の取組

宮城県東松島市総務部地方創生・SDGs推進室 主任 相澤 誠 氏 主査 坂本 康至 氏



東松島市では、甚大な被害を受けた東日本大震災からの復興に向けて、「復興まちづくり計画」と「環境未来都市構想」を創造的震災復興の両輪とし、持続的に発展する東松島市の実現をめざし、防災集団移転、小学校の再建、スマート防災エコタウンなど、さまざまな取組を行ってきました。

2018年には、「環境未来都市」をさらに発展させた「SDGs未来都市」に選定され、全世代にとって住みよい東松島市を創っていくことを目標に、行政が取り組む住民サービスはすべてにおいてSDGsに関連しているものと位置づけて取組を進めています。

まちづくりは行政だけでは難しいので、中間支援組織「一般社団法人東松島みらいとし機構(HOPE)」による民間企業との協働や、他自治体との連携・情報共有、高校性や自治会長など市民向けの啓発などを行っています。

今後も、持続可能なまちづくりを進め、復興のモデル都市から地方創生のモデル都市となるよう取り組んでいきます。

参加者の声

- 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて、大変参考になった。
- 他自治体の取組事例をもっと聞いてみたい。

事例発表②

青森銀行の企業活動とSDGs

株式会社青森銀行総合企画部 広報室長兼副部長 工藤 達也 氏

営利企業にとってのCSR(企業の社会的責任)は、コストではなく、地域社会と企業の双方にメリットのある投資に進化していて、こうした捉え方は、SDGsと親和性が高いと考えています。

地域課題の解決を見据えた発想は新しいビジネス機会につながるほか、健康や環境に配慮した事業を行うことによる風評対策といったリスク管理、企業活動の見える化、外部企業・団体や就活生に対する訴求力向上といったメリットがあります。

青森銀行では、5つのCSR活動方針がどのゴールに向かっているのかを表すSDGsマッピングにより地域課題を再認識し、活動が地域課題にどのように対応しているのかがわかりました。

SDGsをツールとして地域課題を共有し、地域企業が金融機関、自治体が一体となって地域貢献に取り組むことが、企業価値と地域の持続可能性の向上につながっていきます。

参加者の声

- 個人も企業もSDGsに取り組みなければ、若者、世界から相手にされなくなると思った。
- 県内企業のSDGs情報をもっと知りたい。

